

西アフリカ象牙海岸地域における伝統建築の保全活動に関する研究

Jamin Celine

キーワード: 建築遺産、土の建築、環境建築、保存、遺産の促進、西アフリカ、コートジボワール

1. 背景と目的

地球温暖化や海面上昇、砂漠化のような現象に伴って、地球環境は徐々に悪化している。過去数世紀、場合によっては数千年にわたって、人類は生活環境を受け入れるために、その土地特有の解決策を見つけてきた。そのような解決策や研究は、現代の環境問題の解決にも役立つ可能性がある。土を利用した住居は、世界中で観られ、それぞれの地域に最も通用する住居様式であると専門家によって記録されている。我々の身近にあり、容易に利用できる”土”は、建築において最も環境的な選択肢の一つである。

西アフリカの伝統建築は、西洋モデルと比べて“劣っている”という偏見に苦しめられており、この偏見こそが、現地の生活様式の放棄といった危機的状況の要因となっている。

昨今、文化的活動の裏側で長く取り残されてきた、地域特有の遺産を保存する試みが、西アフリカ諸国で注目を集めている。象牙海岸地域の場合、保存の専門家たちにとって、まず文化遺産を世界遺産リストに登録することでその文化遺産の再評価を試みている。本研究は、土を利用して建てられた地域の建築遺産の保存促進するため、現地の専門家たちによって行われた保存活動の社会的、そして環境的な可能性を図るものである。本論文では、象牙海岸北部における土のスーダン様式のモスクの事例と南部の伝統的な住居に焦点を当て、現地の専門家によって開発された新保存メカニズム、保存施策の欠点、地域遺産の保存と促進の尽力に関する世界的連携の影響力を考察する。

2. 研究方法

本研究で使用するデータは、2018年にコートジボワールで4ヶ月を超える滞在の中で収集されたものである。また滞在中に行った、象牙海岸のユネスコ・アビジョンオフィスでの3ヶ月間のインターンシップも本データの収集に寄与している。様々な組織の会議への参加や、行政施策に関わる仕事に携わることで象牙海岸での国家的および国際的な制度とメカニズムを調査した。南部において土の伝統的な建築様式が存在する4つの村を選定し、定期的な現地調査を行なった。調査の中で伝統建築の状態の記録および伝統的な生活様式における土の建築に対する位置付けと役割、さらにコミュニティの認知を調査した。これらの目標を達成するために、写真記録および測定調査を行い、地域社会のメンバーへのインタビューおよびグループでの意見交換を実施した。コング村での10日間における保存ワークショップは、モスク建築技術と記念碑の移設方法などの情報を収集する良い機会となった。熟練のレンガ職人と現地コミュニティ間の建築活動への参加によって、村の人々の文化遺産に対する関心や認知のデータを収集した。写真記録、測定調査、構造解析を現地で行い、2つのコングモスクの建築識別記録を作成した。

加えて、土の利用およびアフリカ様式の遺産に関する保存活動と、政策の歴史に関する既往研究を行なった。最後に、フィールドワーク中やその後に行なった代表的な専門家たちへのインタビューによって、保存活動の理解は地域から地球規模へとより深まった。

3. 結論

本調査研究の結果は、土を利用した建築の様々な環境および社会的な見解を表すものである。これらの知見から文化遺産だけではなく、伝統住居の放棄された分野でも地域特有の保存活動の妥当性を確認した。象牙海岸共和国政府は、世界遺産リストへの継続的な登録の試みとともにネイティブ遺産の促進を進めている。このプロセスと関係地域で行われる様々な活動を通して、地元住民の地域特有の遺産に対するポジティブな変化がすでに観察されている。既に実施されている保存の取り組みを強化し、さらに推進するために、今後数年間の促進活動が決定的な要因となる。これらの目標を達成するために、本研究では、国際協力と学際的アプローチが保存活動を改善するための重要な手段であることを示した。このようなイニシアチブの追求は、国の北部で進行中の保存活動の監視と相まって、象牙海岸の地域建築保存における先例の確立につながる可能性がある。また、過去に放棄された伝統住居をも含めた包括的な保存活動とつながる道筋をつけるものである。